

国府 まるひめ探検隊が行く!

Vol.

1

令和6年3月31日発行



国府まる君

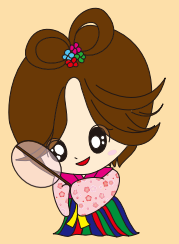
まるひめ探検隊を結成しました。

びん ご こと ぶ あと

備後国府跡のことをもっとみなさんに知ってもらうために、

国府まる君と国府ひめちゃんが府中のまちを探検します。

「まるひめ探検隊が行く!」では2人が見つけたことをみなさんに紹介していきます。



国府ひめちゃん

府中市に大昔の道路が残っているって、ホント!?



「大昔の道路」って言うけどどのくらい昔なんだろう?

それがわかる場所があるらしいよ。行ってみようよ!



ここは、都から来た時に通った大きな道路があった場所だ!

じゃあ大昔って私たちが暮らしていた1,300年前の国府の時代のことだったのね。

あ、あの大きな道路は、今は古代山陽道ってよんでいるんだね。
あれ? 前より道幅がせまくなってない?

そうね。前は広くて立派な道路だったよね。でもこの場所はずっと道路のままなのね。

1,300年前の時代から、今も使い続けられているって、すごい!

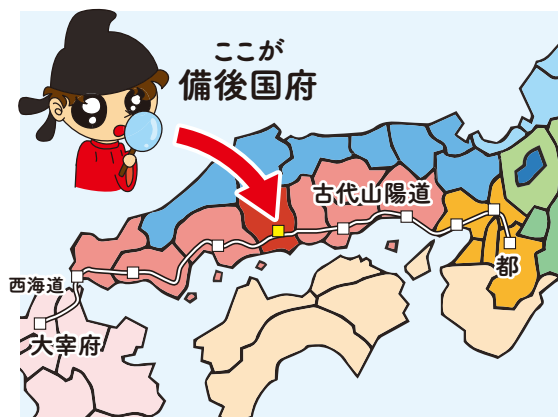


古代山陽道は、「はじまりの広場」「であいの広場」で体感できるよ。歩いてみよう!

古代山陽道とは

古代山陽道は、「大道」と呼ばれたとても重要な道路でした。奈良・平安時代に都（奈良・京都）と九州（大宰府）をむすんだ道路で、直線的で道幅も広いのが特徴です。

中央政府が、情報や命令、ものをいち早くやり取りできるように、都と地方を最短でつなぐためにつくられた道路の一つです。都から各国に派遣される国司や都に税を納めに行く人、外国の使節など、多くの人やものが行き交っていました。

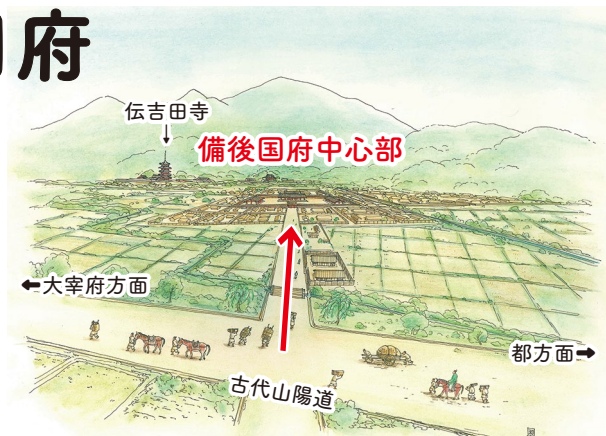


都（平城京）と大宰府をむすんだ古代山陽道と西海道

古代山陽道と備後国府

発掘調査で、備後国府の南側を古代山陽道が直線的に通っていたことが確認されています。さらに、古代山陽道から備後国府の中心部に向かう道がみつかりました。

古代山陽道を通して、備後国府にたくさんの人が行き来し、都の情報や遠くの品物も入ってきたようです。



古代山陽道から見た備後国府想像図（画：早川和子）



備後といえはコレ！

【備後国から都へ納めた税】



あゆ

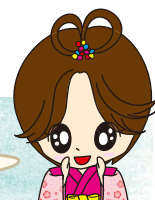


米

鉄など

ある日の古代山陽道

お米を運んでるから、季節は秋だね



みてね

1,300年前のある日の「はじまりの広場」付近の様子をVR化しています。



古代山陽道を行き交う人たちの想像図（画：早川和子）